

平成27年度日本赤十字社高知県支部主要事業実績

1、社員増強・社資募集

地区・分区での社資募集は、日赤関係者や赤十字奉仕団員等の皆様によりそれぞれの地域で住民の方々や企業等にご理解やご支援をお願いするなどの熱心な取組みをいただき、一部地区・分区で昨年度を上回る実績をいただきましたが、全体では一段と厳しい状況となっています。

支部では、高知県工業会及び建設業協会に改めての協力依頼を行ったほか、新たにマンション住民を対象に県内約3,000件にダイレクトメールによる社資募集を行いました。また、本社の進める「社員制度の見直し」にかかる説明と合わせ、7月～10月に県内全市町村を訪問して赤十字事業への理解と支援をお願いいたしました。

本年の社資の状況は、新病院建設への使途指定寄附金が110万円を含め、人口・世帯の減少など地域の厳しい状況もあり、8千8百万円余で目標額に対して85.3%、前年度の実績額に対して80.1%と昨年度よりさらに厳しい状況となっています。

平成27年度目標額	103,500千円	(前年度目標額	103,500千円)
平成27年度実績額	88,257千円	(前年度実績額	110,192千円)
目標達成率	85.3%	(前年度達成率	106.5%)
実績対前年比	80.1%		

(参考)

○地区扱実績額 83,846千円 (前年度実績額 86,567千円)

○実績対前年比 96.9%

(別添【参考資料】に平成27年度 地区別社資実績表を掲載)

2、災害救護事業

災害が発生した場合、日本赤十字社法や災害対策基本法等で定められた指定公共機関として、日本赤十字社高知県支部は、防災関係機関との連携を図りつつ、即時に有効な災害対応を行うこととなっております。

このため、11月7日・8日には南海トラフ地震を想定し、「日本赤十字社中国・四国各県支部合同災害救護訓練」を高知市浄化センター他で実施するなど行政機関や関係機関と一体となった訓練を行い、災害救護体制の充実や職員の技能向上に努めました。

(1) 災害救護体制の整備や訓練

災害救護等に当たる職員の技能向上を図り、災害時にいつでも速やかに災害救護活動が行えるよう、下記のとおり行政機関や関係機関と連携した災害救護訓練への参加、支部独自の研修、中四国の9県による日赤災害救護訓練などを実施しました。

①主な災害救護訓練、研修会

○高知県総合防災訓練（地域防災フェスティバル）（6月7日、高知新港他）

南海トラフ地震を想定した訓練にて救護班と赤十字バイクサポート奉仕団がdERU（緊急仮設診療所）を開設した医療救護訓練に参加しました。また、地域防災フェスティバルの会場で高知市、土佐市、中央西地区赤十字奉仕団計20名が炊き出し訓練と安全赤十字奉仕団2名が救急法講習を行いました。併せて、安全赤十字奉仕団1名が土佐市での孤立地域支援

訓練のサポートを行いました。

○洋上救急慣熟訓練（平成28年3月7日：高知竜馬空港及び土佐湾）

洋上救急センター関西・四国地区支部及び関西・四国地区洋上救急支援協議会の要請により高知地区協力医療機関が参加し実施されており、今回は高知医療センター4名、高知赤十字病院9名が参加しました。参加した医師・看護師等は、高知竜馬空港から海上保安庁のヘリコプターで高知海上保安部の巡視船「とさ」までの飛行訓練を体験するとともに、ヘリコプターや巡視船の救難資器材の説明を受けました。

○日本赤十字社高知県支部関係

・救護主事研修会（6月19日に高知港 潮江緑地）

病院、血液センターから18名が参加し、ドラッシュテントの立ち上げ訓練や緊急車両の走行訓練、無線通信訓練など実践的な内容を中心に救護主事として必要な技能向上に努めました。

・日赤中国四国各県支部合同災害救護訓練

（11月7日・8日、高知市高須浄化センターグラウンド他）

中国四国ブロック（第5ブロック）各県支部間の連携を図り、速やかな救護活動を行うことを目的に、昨年に引き続き合同災害救護訓練を行いました。訓練は、四国沖を震源とするM8.6クラスの地震が発生したとの想定で、各県支部の救護班や防災ボランティア及び災害救護に携わる下記の団体等総勢約600名が参加し、救護所の設営、傷病者の搬送、救護所への受入等の実働訓練等を行い、それぞれの救護活動や他県支部や他団体との連携を確認しました。また、海上保安庁の協力により航空機での鳥取県・島根県支部の救護班、救護機材の鳥取県美保航空基地から高知龍馬空港への輸送訓練を初めて実施しました。

高知県支部では、救護班3個班、日赤災害医療コーディネーター・スタッフ、高知赤十字病院職員、高知県血液センター職員、支部職員、防災ボランティアリーダーなど87名が参加しました。参加者は、複数のチームの受入れを行い、他の医療チームと協働したことにより医療救護に関する全体像のイメージを把握することができました。また、一方でEMIS（広域災害救急医療情報システム）の活用方法や情報整理について課題も見つかりました。本訓練で得たことを平時から組織力の向上、個々の技術の習得に繋げていく必要性を改めて感じたところです。

【訓練参加協力団体】

高知県、高知市、高知県消防防災航空隊、高知県警察本部、高知市消防局、高知地方气象台、陸上自衛隊（第50普通科連隊）、第5管区海上保安本部、高知海上保安部、第8管区海上保安本部、美保航空基地、DMAT（高知医療センター、近森病院）、高知市救護病院（高知西病院、高知高須病院、高知生協病院、近森病院）、高知県看護協会（災害支援ナース）、高知大学医学部看護学科、国立高知病院附属看護学校、龍馬看護ふくし専門学校看護科、高知市立潮江中学校、日本赤十字社高知市地区、青少年赤十字賛助奉仕団、高知県安全赤十字奉仕団、高知県赤十字防災奉仕団、高知大学学生赤十字奉仕団等

○地域住民を守る災害救護救援研修会

(平成28年1月16日：土佐西南大規模公園ふるさと総合センター

1月17日：安芸市防災センター、1月30日：総合あんしんセンター大会議室)

高知県の委託事業として、「地域住民を守る災害救護救援研修会」を県下3ヶ所で開催しております。

今年度のテーマは、「南海トラフ地震を想定し、医療資源が絶対的に不足するとともに、傷病者搬送も困難になる中で、いのちをまもるための具体的な搬送方法を習得する。」こととし、前段で高知赤十字病院 西山謹吾救急部部長の「南海トラフ地震での減災対策は『まず避難』と題した講演、後段は負傷者や要配慮者を移動させる方法として板や毛布を使った搬送実技を行います。

この研修会に幡多と安芸地域では、自主防災組織に参加する県民の皆さまや赤十字奉仕団員、市町村防災担当者など323名の参加がありました。

○赤十字防災ボランティアの体制整備 (6月20日 日赤高知県支部)

赤十字の救護活動の業務支援や救援物資の配布など、災害時の日赤活動を支援いただく登録ボランティア養成講習会を実施し、18名が参加しました。防災赤十字奉仕団の支援により、

①赤十字の災害救護活動やボランティアについての講義、②非常食の炊出し、③止血包帯法、ロープの取り扱いかななどを学び、災害時に実働できる防災ボランティアの養成に努めました。

②地区区分など地域における訓練等への支援事業

○日赤の地区・分区や奉仕団、自主防災組織などが主催する防災訓練や研修会等で、災害時の応急手当講習や炊き出し訓練などの防災訓練活動支援に日赤高知県支部として積極的に取り組みました。県内29ヶ所で行われたこれらの活動に県民の皆様や奉仕団員など1,301名が参加をされました。

○赤十字奉仕団によるハイゼックス（災害時の炊飯袋）を用いた炊き出し訓練が県内15か所で実施され、ハイゼックス1,300枚を提供しましたほか、一般の方からハイゼックスの購入や問い合わせもありました。

(2) 社会福祉協議会との業務協定

災害時住民の身近な組織として防災・減災対策の普及に努め、ボランティア・センターの立ち上げなど迅速な対応が期待される市町村社会福祉協議会と災害時に医療救護をはじめ防災・減災の知識と技術を広める活動を担う日本赤十字社が住民の被害の軽減及び迅速な災害救護活動の遂行を行うため災害救護に係る業務提携を結ぶこととなりました。

11月24日、県内の第1号の協定を安芸市長（安芸市地区長）立会いのもと安芸市社会福祉協議会と締結いたしました。また、南国市と高知市の社会福祉協議会と協定に向けた取り組みを行っています。

(3) 救護装備等の整備充実

県民の皆様や企業から寄せられます活動資金（社資）をもとに、今年度は、備蓄食糧の更新、携帯用業務無線（150帯）の購入、災害時用トイレの購入など大規模災害に備えた救護装備の整備充実を図っています。

(4) 県内の災害被災者への救援、支援について (平成28年3月末現在)

住家火災の被災に遭われた33世帯77名の方に、毛布98枚、緊急セット35個、バスタオル105枚の災害救援品をお届けしました。

また、9月24日、須崎市において1時間に120mmの大雨を記録しました。床上浸水7件、

床下浸水109件の被害が発生し、避難所も開設されました。床上浸水された2世帯に対し、毛布と緊急セットをお届けし、避難所には毛布30枚、タオル43枚をお届けしました。

○災害弔慰金の交付（平成28年3月末現在）

火災で亡くなられた方のご遺族に弔慰金7件 70,000円をお届けしました。

(5) 常設医薬品の設置

航空機や空港施設を利用される方などの「もしもに備えて」高知龍馬空港の総合案内に救急箱を設置しています。

(6) 臨時救護所の開設

県民の皆様が多数参加される各種行事や大会、護国神社での祭事、マラソンなどのイベント等に日赤の救護所を開設し、医師、看護師、バイクサポート奉仕団等による救護活動を行いました。

主な救護：護国神社大祭（4月2日、11月2日）、日高茂平マラソン（11月22日）

高知龍馬マラソン（2月14日）、高知健康マラソン（3月13日）

3、国際救援・災害義援金募集事業

(1) 国際救援・開発協力事業

○ネパール地震救援

平成27年4月25日にネパール地震が発生し、死者8,857人、家屋被害約93万戸と甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社では、国際赤十字・赤新月社連盟の緊急支援要請に対し、救援物資（衛生キット2,621個、毛布1万2,863枚、蚊帳3,000張、ポリタンク2万個、ビニールシート1,290枚）や合計1億円の資金の支援を行いました。また、「住宅再建」「地域の診療所再建」「水と衛生の整備」「生活支援」など人々の生活に欠かせない分野に焦点を当て、今後も支援を続けていきます。

○中東人道危機救援

2010年に始まったアラブの春に端を発する民衆蜂起で、紛争状態となったシリアでは、武力衝突が5年目に入った今も、政治的解決のめどは立っていません。一方、レバノンやヨルダン、トルコ、イラクなどに流出した難民は、国際社会が保護する難民数の過去最多を記録する400万人に上り、受け入れ国に多大な経済的負担を強いています。日本赤十字社では、シリアに対し、トータル5,600万円の資金支援を実施し、各国に流出した難民に対する健康・衛生促進、住居支援や資金支援などを行っております。しかし、現在もシリアやイラク、パレスチナをはじめ、中東諸国では政情不安や武力衝突、混乱が続いており、支援のさらなる拡大が必要とされています。

○NHK海外たすけあい

世界各地で多発する大規模災害や紛争に伴う緊急救援や開発途上国や災害常襲地への開発協力などを実施するための12月にNHKの協力のもと「第33回海外たすけあい募金」キャンペーンを行いました。高知県内では、青少年赤十字加盟校と地域奉仕団がタイアップした取り組みなどにより、今年度は昨年度を上回る155万円余（昨年度130万円余）のご協力をいただきました。

また、中国・四国9県の赤十字支部の国際救援活動として、「アジア・大洋州給水・衛生キット事業」に700万円の資金援助を行い、高知県支部から563,921円を拠出しました。

(2) 災害義援金・海外救援金募集事業

東日本大震災から5年目を迎え、被災者からは「震災のことを忘れないでほしい。」という声が多く寄せられています。今なお被災地では、原子力発電所事故による放射能の影響等、多くの住民の方々が仮設住宅や県外での生活など不自由な生活を強いられています。特に復興活動の続く岩手県、宮城県、福島県、茨城県の被災者を対象に、日本赤十字社は平成29年3月31日ま

で義援金募集を延長しました。

また、ネパール地震やシリア等の中東地域での紛争に対する人道支援などの救援金募集や国内災害義援金等を支部ホームページや日赤の各地区分区にお知らせし、県民の皆さまに広くご支援をお願いしています。

今年度、県内の皆さまから寄せられました義援金・救援金は次のとおりとなっています。

義援金・救援金総額	711件	4,627,581円
東日本大震災義援金	37件	2,482,368円
NHK海外たすけあい(27年度高知県支部受付分)	638件	1,553,067円
平成27年台風第18号大雨災害義援金(高知県受付分)	8件	37,430円
中東人道危機救援金	2件	33,397円
2015年ネパール地震救援金	21件	401,205円
2016年台湾地震救援金	4件	116,717円
無指定海外救援金	1件	3,397円
※本社受付含む高知県の実績		
NHK海外たすけあい	932件	4,044,034円
2015年ネパール地震救援金	187件	2,748,467円
※東日本大震災義援金(高知県支部寄託分)	10,877件	910,403,051円
(平成23年3月14日から寄託いただいたものと本年度の4県対象分を合算)		

4、救急法等講習・一日赤十字事業等

(1) 各種講習

災害や日々の事故に備え、安全で健康な生活を営む方法や尊い人命を救助する知識と技術を普及するため、救急法・水上安全法・幼児安全法・雪上安全法及び健康生活支援などの講習活動を、安全赤十字奉仕団や高知赤十字病院とともに県内各地で実施しました。

併せて、各地域や団体から要請の増える「防災をテーマとした講習」活動にも積極的に取り組みました。

そのほか、各地区の社資設定会や高知市町内会連合会、法人への事業資金の再依頼、市町村への訪問時に講習会の案内チラシを配布して各種講習会の紹介をいたしました。

また、3年目となる高知市教育委員会の委託事業、「高知市内の全小学校5年生に、災害時の対応力と「共助」の心を身に付けてもらうことを目的とした心肺蘇生講習」を実施しました。

種 別	回 数	受講者数
救急法(基礎含)講習会	158回	5,911名
小学5年生心肺蘇生講習	55回	2,955名
水上安全法講習会	10回	539名
幼児安全法講習会	16回	614名
雪上安全法講習会	1回	1名
健康生活支援講習会	9回	220名
災害時高齢者支援講習会	4回	193名
防災講習会(地域、学校など)	39回	2,402名
合 計	292回	12,835名

(2) 一日赤十字事業

地域で赤十字活動に参加される人や理解される人を増やし、奉仕団活動をはじめ地域の安全安心の活動を活発に行っていただくため、地区分区等と共同で応急手当の講習など事業に取り組んでいます。

○治療奉仕 6月23日 須崎市、7月14日 香美市、平成28年2月2日 南国市
このほか、3ページに「地区区分など地域における訓練等への支援事業」掲載

[一日赤十字の事業項目]

赤十字に関する研修会、防災訓練等での炊き出し指導等、救急法等短期講習、治療奉仕
各種講演：防災・医学・血液など

5、地区区分活動

各地区で実施する社資目標額設定会や意見交換会等を通じて高知県の活動の状況や各地域の活動への相互理解を深めました。また、県内全市地区町村分区に支部職員が訪問し、本社の進める「社員制度の見直し」にかかる説明を行うとともに、地域で「顔の見える赤十字活動」への協力をお願いしました。

○地区区分奉仕団委員長及び事務担当者等との意見交換会（高知市は分区長及び奉仕団委員長等）

7月10日の安芸市地区を皮切りに県内34市地区・町村分区奉仕団委員長及び事務担当者との意見交換会を開催しました。

・平成29年度施行予定の新社員制度について

新社員制度では「法律に基づいた団体として社員をしっかりと管理する必要があり、自社の情報の定期的な提供や社員証の発行などを行うために2千円以上ご協力いただく方を会員とし、500円以上ご協力いただく方を協賛会員とする。」ことが検討されていますが、高知県では、「引き続き500円以上ご協力いただく方を積極的に募集していく。」という従来の社資募集の継続をお願いし、参加された方々から概ねご理解をいただくことができました。

また、各市地区及び町村分区で開催したことにより、第一線で直接住民の皆様と接して活動されている方々に直接お会いし情報共有できたことは、今後の活動に活かすことのできる有意義な会となりました。

○安芸市社会福祉協議会（以下、安芸市社協という）と業務提携の協定書を締結

安芸市社協と日赤高知県支部が包括的な連携・協力のもと安芸市で人道的な活動を展開し、市民の安心・安全及び福祉の向上に資するため業務提携に関する協定書を締結いたしました。

この協定により、安芸市社協に日赤の知識と技術を取得した職員を養成し、当該職員の地域活動を通じた地域の防災・減災対策の普及や奉仕団等との連携による迅速な災害救護活動の遂行に向けた積極的な取り組み、救急法等の一次救命措置を通じた市民の安心・安全活動を進めるため、定期的に打合せを行い課題の共有と具体的実施計画の策定を進めています。

○南国市社会福祉協議会（以下、南国市社協という）と2月3日に業務協定に向けた打合せを行い、南国市を含めた3者協定締結とすることとして最終調整に入るとともに、社協職員の赤十字活動への理解増進のため研修を実施するなど、積極的な対応をいただきました。

6、赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団高知県支部委員会では、「社資募集」、「県内各地で災害救護」、「献血の推進」、「他団体や青少年赤十字活動との連携」などを活動のテーマに掲げ、それぞれの地域で熱心な活動や取り組みが行われました。

(1) 災害救護への取り組み

1～3ページに記載する各種訓練等に地域の奉仕団等が積極的に参加をしています。
また、地域での火災や水害等の被災者の皆さまに救援物資等をお届けしています。

(2) 社資募集

県内各地で奉仕団員が地域内のご家庭や企業等を訪問するなど、赤十字活動への理解と赤十字の活動資金の増強に向けて熱心に取り組まれました。

(3) 献血活動

県内各地の献血会場で地域の奉仕団による献血の呼びかけや献血者への接遇が実施されました。

(4) 赤十字奉仕団高知県支部委員会活動

①中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会（11月25日～27日、徳島県）

高知県から高知市奉仕団と香南市奉仕団から2名が参加され、「赤十字防災啓発プログラム」「気象庁のワークショップ」「避難所運営ゲーム（HUG）」等、今後発生が危惧される南海トラフ地震等の災害発生時に活かせる知識と技術の研修を受けました。また、赤十字ゆかりの地の見学などもあり、大変有意義な研修会となりました。

②中国四国ブロック奉仕団（各県奉仕団委員長）協議会（10月28日・29日、島根県）

中四国ブロック9県から奉仕団委員長と支部担当者が参加し、「赤十字の見える化」を共通テーマとして「青少年赤十字とのかかわり」や「地域での活動について」、「災害に備えた活動について」など各県の活動状況や課題等についての協議がなされました。

③赤十字ボランティア・リーダー研修会（9月26日～28日、本社）

安芸市赤十字奉仕団委員長1名が参加され、赤十字の理念や奉仕団活動、グループとリーダーなど赤十字への理解を深め、奉仕団のリーダーとしての活動に参考となる有意義な研修でしたとの報告がありました。

④役員会

7月23日には、年度の第1回の役員会を県支部で開催し、平成27年度の県支部委員会の取組や奉仕団等の研修の進め方、社資募集の課題や取り組みについて協議などを行いました。

第2回役員会は12月17日に同じく県支部で開催し、社資募集や奉仕団研修、赤十字啓発イベントの進め方等について協議を行いました。

○安芸市社会福祉協議会と協定書を結んだ安芸市赤十字奉仕団から、ボランティアセンターでの災害時の救護支援活動など、奉仕団が身につけるべき知識等について話がありました。

○社資募集では、マンションへのダイレクトメールの送付などが支部から報告され、来年度地域の奉仕団の方々によるメール投げ込み作業への協力依頼がありました。

○学校における青少年赤十字活動の普及については、防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」の全小中高への発送が報告され、防災学習で活用していただけるよう、地域からもお願いしていくことが提案されました。

○赤十字活動啓発イベントは、「のぼり旗」を作成し、平成28年4月29日（祝日）に赤十字運動啓発パレードを実施することが提案されました。

平成28年度の県内の奉仕団活動重点項目や今後の奉仕団活動に対する課題協議などと合わせて3月の県支部委員会で提案することとなりました。

⑤赤十字奉仕団高知県支部委員会

3月10日、総合あんしんセンター3階大会議室で赤十字奉仕団高知県支部委員会を実施し、平成27年度の事業報告を行うとともに平成28年度の事業計画及び事業方針を以下のとおり協議決定いただきました。

○桃太郎旗やブルゾンなど赤十字マークの入った物品を身に着けるなど、「赤十字の見える活動」を実施すること。

○4月29日に赤十字運動月間啓発パレードを実施し赤十字をアピールすること。

○奉仕団主催の事業を最低年1回開催し、社資の増強や「見える化」に繋げていくこと。

○各奉仕団最低2名の新規団員加入を目指すこと

また、各ブロック・特殊奉仕団からの推薦に基づき、県支部委員会の副委員長の就任の決定をいただくとともにこの役員の互選による委員長を以下のとおり決定いたしました。

- ・委員長 戸梶 恵子（高知市赤十字委員長）
- ・副委員長 佐藤 満子（安芸ブロック ・安芸市委員長）
- 石川 鶴子（中央東ブロック・香南市委員長）
- 池田 節子（中央西ブロック・いの町委員長）
- 谷崎 直子（高幡ブロック ・四万十町委員長）
- 柿部佐多香（幡多ブロック ・大月町委員長）
- 南部 忠彦（特殊奉仕団 ・防災奉仕団委員長）

⑥平成27年度赤十字奉仕団研修会

安芸市地区研修会、香南市地区研修会、安芸地区北川村分区研修会、中央東地区大川村分区研修会、中央西地区佐川町分区研修会、高幡地区研修会、幡多地区三原村分区研修会、中央西ブロック奉仕団及び防災リーダー研修会、日赤香南市・香美市奉仕団合同大会

(5) 各地域奉仕団の活動

高知市地区奉仕団が10月10日に高知市総合あんしんセンターで開催した「赤十字のつどい」には、黒田修作高知地方気象台調査官から「地球温暖化がもたらす気象変動について」の講演をいただいたほか、県内各地区で防災研修や地域の防災訓練への参加の活動が見られました。

また、高知市地区での「抱っこボランティア」活動や児童施設・福祉施設等の訪問のほか、各地域で高齢者施設訪問や美化運動、施設イベントの手伝い、海外たすけあい街頭募金（高知市、安芸市、須崎市）、一人暮らし老人世帯への訪問活動、マラソン支援など、各地の奉仕団で特色のある活動が行われました。

(6) 特殊赤十字奉仕団の活動

①安全赤十字奉仕団には、県内各地で学校や企業などで開催される講習会等で救急法の指導等に積極的に参加、協力をいただきました。また、3月12日に総会を開催し、平成28年度の講習等事業計画を承認するとともに地域との連携を一層図っていくこととなりました。

②防災赤十字奉仕団には、県や高知市、支部での災害救護訓練やマラソンの臨時救護、防災ボランティア養成講習のスタッフとしてご協力をいただきました。

また、赤十字バイクサポート奉仕団にも、県の防災訓練やマラソンでの救護スタッフとして支部活動に支援をいただきました。

③このほか、各芸能奉仕団による施設訪問、高知県盲学校学生治療赤十字奉仕団による須崎市・香美市での治療奉仕など、特殊奉仕団ではそれぞれの特技を生かした活動がなされました。

④防災ボランティアリーダー等が11月7、8日の日赤中国四国各県支部合同災害救護訓練に参加し、アマチュア無線や患者搬送など特技を生かした活動を行っていただきました。

(7) 青年奉仕団

社会人メンバー4名と「高知大学学生赤十字奉仕団」が協力して活動に取り組み、「高知大学学生赤十字奉仕団」は乳幼児施設での「抱っこボランティア」活動も定期的に行うほか、次の活動にも取り組まれました。

- ① FM高知 暮らしの安心フェア（7月5日、イオンモール高知 南コート）
大学生6名が、ステージで支部職員とともに一次救命処置の実技を行い、来場された方々に身近な人の命を守る方法を伝えました。
- ② 高知県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター
（7月23日～25日、国立室戸青少年自然の家）
大学生1名がスタッフとして参加し、JRCメンバーや指導者の先生方とともに活動することで、青少年赤十字活動についての理解を深めました。
- ③ 「高知県青少年赤十字研究大会・海外たすけあい街頭募金活動」
（12月6日、高知商工会館・追手筋周辺）
社会人1名、大学生5名が参加して会場の設営や運営に協力するとともに、「高知大学学生赤十字奉仕団」の委員長が全体の司会進行を行い、大学生2名が「海外たすけあい募金活動」の趣旨をスライドを用いて説明し、参加者に活動の意義を伝えました。
「海外たすけあい」街頭募金では、JRCメンバーや高知市奉仕団とともに帯屋町筋商店街などで募金を呼びかけました。
- ④ 「秦地区防災フェア」（12月20日 シキボウ跡県有地）
大学生2名が赤十字のコーナーに参加し、子ども救護服の試着や記念撮影の手伝いなどを行いました。
- ⑤ 第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会代表者会議（6月13日～14日、徳島県徳島市）
中国四国各県から青年奉仕団員と支部職員が参加しました。高知県からは「高知大学学生赤十字奉仕団」委員長と支部職員1名が参加し、本社提出議題や各県での活動内容や具体例、活動の活発化について協議しました。
また、10月10日～12日に愛媛県松山市で開催された第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会にも「高知大学学生赤十字奉仕団」委員長が出席し、今後の高知県での活動に活かせる知識と技術の習得に向けて取り組みました。

○奉仕団結成状況

（平成28年3月末日現在）

種 別	団 数	団 員 数	備 考
地 域 奉 仕 団	32	6,201名	分団を除く
特 殊 奉 仕 団	15	259名	
青 年 奉 仕 団	2	15名	
合 計	51	6,474名	

※大川村及び仁淀川町は、休止中

7、青少年赤十字（JRC）活動

青少年赤十字は、将来を担う青少年に、赤十字について正しく理解してもらうこと、また赤十字活動への参加を通じて世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう日常生活の中で望ましい人格と精神を養ってもらうことを目的として、高知県内の各学校に加盟していただき、教育方針や実情に即しながら自主的な活動を進めていただくものです。

高知県教育委員会や各市町村教育委員会、JRC指導者協議会、JRC賛助奉仕団、さらには地域の赤十字奉仕団の協力のもとに加盟校の増強や活動の活性化に取り組んでいます。

（1）県全体の活動

- ①高知県青少年赤十字高等学校連合会総会（4月25日、高知県支部多目的室）

高知市内のJRC高等学校加盟校から3校15名の高校生と指導者4名が参加し、今年度の役員選出や取り組みなどについての協議を行いました。今年度は各学校で救命処置について学んでいくことを決め、6月に第2回目の会合を開催、学んだ知識や技術について情報交換を行いました。

した。

②高知県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(リーダー養成研修会)

(7月23日～25日、国立室戸青少年自然の家)

JRC加盟校から49名の児童・生徒と15名の指導者が参加し、今年度も国立室戸青少年自然の家で開催しました。アイスブレイキング、貿易ゲーム、フィールドワーク、野外炊飯等の活動を行いながら、青少年赤十字メンバー同士で親睦を深め、身の回りにあるニーズに気づき、考え、実行していく積極性を身につけるよう取り組みました。また、グループワーク「卵を救え」「ドローイング・チャレンジ」ではいろんな意見を出し合って決めること、協力することの大切さを学びました。

③四国ブロック高校生協議会(8月17日～19日、高知市工石山青少年の家)

高知県が開催担当県となった今年は、高知市工石山青少年の家で開催し、四国四県の高校生メンバー21名と指導者の先生方が参加しました。和気あいあいとした雰囲気の中、3つのグループに分かれて防災について与えられたテーマを協議し、発表を行いました。各県でのトレセンには参加経験のあるメンバーですが、他県の高校生メンバーと交流することで、新たな「気づき」が生まれていました。ほかにも气象台ワークショップやこんにやく作りなどを体験し、楽しみながら活動することができました。

④「高知県青少年赤十字研究大会・海外たすけあい街頭募金活動」

(12月6日、高知商工会館・追手筋周辺)

加盟校のうち1園11校から青少年赤十字メンバー、教員合わせて59名が参加しました。このうち5校が防災教育の取り組みや今年度の活動内容についての発表を行い、各校の取り組みについて互いに理解を深めました。また、諏訪赤十字病院 臨床心理士 森光 玲雄さんを講師にお招きし、ネパール地震において現地で行ったところのケア活動などの支援や現地の様子、また、赤十字が世界で行っている活動などをお話いただくことで、赤十字活動の大切さを改めて確認できました。

また、午後からは高知市奉仕団、賛助奉仕団、青年奉仕団とともに帯屋町筋商店街などで「海外たすけあい」街頭募金を実施しました。この他安芸市でもJRCメンバーが安芸市奉仕団とともに「海外たすけあい」街頭募金を行いました。

⑤「秦地区防災フェア」(12月20日 シキボウ跡県有地)

高校生メンバー5名が赤十字のコーナーに参加し、高知大学学生赤十字奉仕団とともに子ども救護服の試着や記念撮影の手伝いなどを行いました。

⑥「青少年赤十字スタディセンター」(平成28年3月23日～28日 山梨県山中湖村東照館)

高知県青少年赤十字高等学校連合会会長 杉本 菜穂さん(土佐女子高校2年)が参加し、全国から参加したメンバーと青少年赤十字の活動やリーダーシップ、防災学習、国際理解など幅広い研修に参加しました。

(2) 各校の活動

JRC加盟校には支部職員や安全奉仕団指導員を講師として派遣し、様々な活動が行われました。

- ①緊急時に必要な手当てを身につけることを目的に、一次救命処置やAEDの使い方をはじめとする救急法や着衣泳をはじめ水の事故から身を守る対処法などの水上安全法講習を実施しました。
- ②平和学習で国際人道法普及などを目的として、世界の紛争地域の子どもたちが少年兵や地雷被害などで苦しんでいる現状等への理解を深める講習を行いました。
- ③南海トラフ地震等に備えるための防災学習を行い、東日本大震災での救護活動等について体験などを話すとともに、身近なものを使った応急手当についての実習を行いました。なお、香美市の山田小学校が昨年度に引き続き防災学習の一環として県支部を訪れ、支部職員からの災害対応の講話の後、救急車の見学を行い、赤十字活動への理解を深めました。

(3) 指導者の研修会等

- ① 6月15日に青少年赤十字指導者協議会及び青少年赤十字賛助奉仕団総会を支部で開催し、前年度の青少年赤十字活動の報告と今年度の活動についての協議を行いました。
- ② 10月15日～16日、第5ブロック各県青少年赤十字指導者協議会長並びに青少年赤十字事務担当者会議が鳥取県鳥取市で開催され、中国四国各県から指導者協議会長等と支部職員が参加しました。高知県からは支部職員1名が参加し、各県から提出された議題について協議を行い、青少年赤十字活動を充実させるための意見交換を行いました。
- ③ 7月2日～3日に全国青少年赤十字賛助奉仕団総会が本社で開催され、本県から高知県青少年赤十字賛助奉仕団委員長が参加し、加盟校の拡大、新入団員の増加の方策、関係奉仕団との連携等の課題についての協議が行われました。また、10月15日～16日に鳥取県で開催された中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会に、委員長と団員1名が参加しました。
- ⑤ 青少年赤十字活動の活発化に向けた取り組みの一つとして、昨年度から発行を再開した賛助奉仕団会報を今年度も発行し、県内の教育委員会及び青少年赤十字加盟校などに配布しました。

(4) 青少年赤十字防災教育

本社が作成した青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」について、高知県教育委員会、市町村教育委員会、各教育事務所のご協力により県下の公立学校を中心に配布しました。

防災コミュニケーションワークショップ「竹ひごタワー」を加盟校3校に支部職員が訪問し開催したほか、四国ブロック高校生協議会において高知地方気象台と合同での気象庁ワークショップを開催しました。

昨年度に引き続き、高知市立潮江中学校が防災教育モデル校に指定されており、自分の命を自分で守ることができる生徒の育成に向けた取り組みを進めています。

○青少年赤十字で行った各種講習会等（平成28年3月末日現在）

種 別	回 数	受講者数
救急法（基礎含）講習会	76回	3,587名
水上安全法講習会	18回	1,236名
雪上安全法講習会	2回	121名
平和学習	4回	534名
防災学習	14回	951名
幼児安全法講習会	8回	166名
登録式、社会見学受入等	3回	618名
合 計	125回	7,213名

○青少年赤十字加盟状況（平成28年3月末日現在）

加盟校別	加盟校数	加盟校別	加盟校数
幼稚園・保育園	9園	高等学校	20校
小学校	62校	特別支援学校	11校
中学校	21校	合 計	123園・校

8、血液事業（献血の推進）

献血の推進を図るため、高知県支部では、

- 奉仕団県支部委員会を通じて、献血推進に取り組むこととし、
 - ・各地の献血会場で奉仕団員が献血の呼びかけや接待などの実施

- ・ J R C活動の推進の中で教育関係者に献血の大切さなどを理解いただく
- ・ 地域での奉仕団研修に献血推進の研修の場をもつ

○県内各地での社資目標額設定会議や各種研修会等を通じて献血推進への協力を呼び掛ける

○高知県赤十字血液センターの啓発資料などの各地区区分などへの配布を進める
などに取組んでいます。

○第52回高知県献血推進協議会が3月18日高知共済会館で開催され、平成28年度の高知県の献血推進計画等が協議されました。

＝ 献血目標及び実績（平成28年3月末日現在） ＝

・平成27年度	献血目標	31,790人	（平成26年度	33,431人）	
・平成27年度	献血実績	30,655人	（平成26年度	30,983人）	
	目標達成率	96.4%			
	対前年比	98.9%			
〔	（内訳）	200mL	1,069人	（平成26年度	1,026人）
		400mL	22,308人	（平成26年度	22,869人）
		成分	7,278人	（平成26年度	7,088人）

9、高知県赤十字有功会

高知県赤十字有功会は、県内の赤十字活動の支援団体として組織され、赤十字活動や支部事業の支援、啓発活動に取り組みました。

（1）会議等

①総会が6月11日に城西館で開催され、事業報告・事業計画並びに予算決算が承認されました。

また、高知赤十字病院 西山 謹吾 救急部長（救命救急センター長）に、「南海地震にどう備えるか」と題し、ご講演をいただきました。

②全国赤十字紺綬有功会長総会（10月15日・栃木県）に竹島愛子副会長が参加しました。

③理事会（2月26日・日赤高知県支部多目的室）を開催し、平成27年度の決算見込み及び平成28年度の事業計画及び収支予算が承認されました。また、平成28年度の総会の6月15日、三翠園での実施及び平成31年の有功会創立30周年、高知赤十字病院の新築落成に向けて記念事業の検討などが議決されました。

④3月26日、会員相互の親睦を図るためチャリティーコンペを実施し、35,000円を日赤高知県支部の活動支援に寄付されました。

（2）支部支援事業

今年度の高知県支部の事業を支援のため高知県支部に「活動啓発用のぼり旗」、高知赤十字病院に「患者用図書」、高知赤十字血液センターに中・高等学校での啓発セミナー用「詰替式蛍光マーカー」が寄贈されることとなりました。

10、社業振興等

赤十字の活動への理解を深めるため、広報紙の発行やホームページによる広報活動をはじめ、県内各地で開催される赤十字講習会等を通じて、「県民の目に見える活動」の推進に取り組みました。

（1）支部や地区区分、病院、血液センターの取組みを掲載した支部広報紙「ふれあい」を4月と11月に発行し、地区区分の関係者や各種研修会及び講習会の参加者などに配布しました。

- (2) 支部ホームページに定期的にトピックスを更新し、支部の現状や最新活動情報、救急法などの講習をご覧いただくように努めました。URL <http://kochi-jrc.com/>
- (3) 5月13日に、全国赤十字大会が東京都の明治神宮会館で開催をされ、各地区の代表者等15名が参加しました。

11、主な会議等

(1) 社資目標設定会議

平成27年3月25日の総合あんしんセンターでの高知市地区社資目標額設定会をはじめ、県内16地区で社資設定会を開催いただき、平成27年度の管内各分区の社資目標額への取組みに対するご協力をお願いするとともに、赤十字活動などについての理解を深めていただきました。

(2) 日赤高知県支部評議員会

平成27年6月8日に平成27年度第1回日本赤十字社高知県支部評議員会を総合あんしんセンターで開催し、平成26年度の日本赤十字社高知県支部・高知赤十字病院の事業及び決算の承認をいただき、高知県赤十字血液センターの事業の承認をいただきました。

また、平成28年2月5日平成27年度第2回日本赤十字社高知県支部評議員会を総合あんしんセンターで開催し、平成28年度の日本赤十字社高知県支部・高知赤十字病院の事業計画及び予算の承認をいただき、高知県赤十字血液センターの事業計画の承認をいただきました。

(3) 日赤地区・町村分区事務担当者会

平成27年6月24日に平成27年度日赤地区・町村分区事務担当者会を総合あんしんセンターで開催し、赤十字資金（社資）の管理や地区分区交付金要領・地区分区名誉職及び奉仕団役員の委解嘱などについて理解を深めていただきました。

(4) 日本赤十字社高知県支部長表彰

平成28年2月24日総合あんしんセンター3階大会議室で「平成27年度日本赤十字社高知県支部長表彰」が実施され、社資募集奉仕勤続10年以上の個人19名と平成26年度社資目標達成率120%以上の3地区37分区に支部長表彰が、平成26年度社資目標達成率100%以上の4地区30分区に支部長感謝状が贈呈されました。

(5) 日本赤十字社理事会・代議員会

平成28年3月18日、東京都新霞が関ビルで理事会・代議員会が開催され、平成28年4月の「社員制度の改正」、平成29年4月の「新たな社員制度の施行」が決定されました。

参考資料

- [社資募集の状況] P 1
○平成27年度地区別社資実績表
- [救護班等の設置状況] P 1
○赤十字常備救護班設置状況
○災害派遣医療チーム（DMAT）設置状況
- [支部救護資材等一覧] P 2・3
○支部の主要救護装備
○NBCテロ・災害対策設備整備品の主な装備（平成23年度、病院）
○d-ERU（国内型緊急対応ユニット）の主な装備（平成22年3月配備）
○放射線防護資器材（平成27年3月配備）
○救護班活動用食料（平成27年10月末）
- [救援物資の状況] P 4
○救援物資の備蓄状況
○地区別救援物資配布状況
- [東日本大震災に伴う義援金の状況] P 4
○義援金の状況
- [青少年赤十字] P 5
○高知県青少年赤十字加盟校マップ（平成27年度）

[社資募集の状況]

○平成27年度 地区別社資実績表

地区別	目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)	参考 平成26年度実績額(円)
高知市	41,811,000	30,197,071	72.2	31,111,563
室戸市	2,133,000	2,080,450	97.5	2,263,094
安芸市	2,769,000	3,330,830	120.3	3,342,300
香南市	4,032,000	4,309,752	106.9	4,394,100
香美市	3,843,000	3,041,828	79.2	2,995,684
南国市	6,400,000	7,181,012	112.2	8,108,915
土佐市	3,816,000	2,999,442	78.6	3,093,106
須崎市	3,127,000	3,017,741	96.5	3,275,437
四万十市	4,976,000	4,001,256	80.4	3,972,595
宿毛市	3,187,000	2,761,600	86.7	2,714,780
土佐清水市	2,481,000	1,761,280	71.0	1,852,665
安芸	2,629,000	3,097,598	117.8	3,140,531
中央東	2,056,000	2,558,552	124.4	2,523,230
中央西	8,158,000	6,755,364	82.8	6,906,513
高幡	5,290,000	4,696,791	88.8	4,669,391
幡多	2,864,000	2,055,947	71.8	2,201,260
地区合計	99,572,000	83,846,514	84.2	86,567,899
支部直扱い	3,928,000	4,411,043	112.3	23,624,521
総計	103,500,000	88,257,557	85.3	110,192,420

[救護班等の設置状況]

○赤十字常備救護班設置状況

班名	構成組織	班員(人)	職種別班員数(人)				
			医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事
第1班	赤十字病院	7	1	1	2	1	2
第2班	赤十字病院	7	1	1	2	1	2
第3班	赤十字病院	7	1	1	2	1	2
第4班	血液センター・病院	6	1	1	2	0	2
第5班	赤十字病院	7	1	1	2	1	2
第6班	赤十字病院	7	1	1	2	1	2
合計		41	6	6	12	5	12

◎その他 医療救護に関する指導を目的に特命救護班員(高知赤十字病院救命救急部長)を指名し、医療救護体制の充実を図っています。

○災害派遣医療チーム(DMAT)設置状況

班名	構成組織	班員(人)	職種別班員数(人)			
			医師	看護師長	看護師	調整員
第1班	赤十字病院	6	3	1	1	1
第2班	赤十字病院	6	2	1	1	2
第3班	赤十字病院	5	2	0	2	1
第4班	赤十字病院	5	1	0	2	2

[支部救護資材等一覧]

○支部の主要救護装備

品 目	数 量	備 考
AED (自動対外式除細動器)	4台	
車 両	6台	救急車1台 災害救援車4台 指揮車1台
連絡・輸送車	11台	内地区配備10台
救命ボート	1隻	8人乗り船外機付き
業務用無線 150メガ帯	19局	基地1局、車載8局、携帯10局
業務用無線 400メガ帯	25局	基地1局、車載8局、携帯13局、簡易3局
アマチュア無線局	1局	
市民バンド簡易無線機	5台	
電 話	4台	防災行政無線電話1台 携帯電話2台 衛星携帯電話1台
テ ン ト	16張	ドラッシュテント 1張 (平成24年度) パイプテント 13張・エアテント 2張
発 電 機 ・ 投 光 器	14台	発電機5台 投光器 (クリップ式) 6台 発電機付大型投光器 (発電機付) 2台 背負い式投光器1台
担 架	73台(本)	担架 (紙担架含) 34本 担架台39台
簡 易 ベ ッ ド	38台	
医 療 セ ッ ト	2組	
携 帯 用 医 療 セ ッ ト	4組	内2組は第5班・第6班に配備
浄 水 器	1組	
自動ラップ式トイレ	1台	
炊出用移動かまど	6組	

○NBCテロ・災害対策設備整備品の主な装備 (平成23年度、病院)

品 目	数 量	品 目	数 量
除染システム	1	防護マスク	12
フードシステム	12	吸収缶	36
アンセル手袋	24	ハズマックスブーツ	12
非除染者簡易服セット	100	マイドーズアラーム	12
緊急用担架	60	アイソレータ	13
危険物回収用ドラム	3	搬送用人工呼吸器	2
キャピエアーストレッチャー	15	CYR-04T用担架棒	2
オリンパスエアウェイマネジメント モバイルスコープ	2	自動心臓マッサージ器	1

○d-ERU（国内型緊急対応ユニット）の主な装備（平成22年3月配備）

品 目	数 量	備 考
車 輛	1台	
エアテント	1セット	約縦9m×横9m×高4m
医療セット	10ケース	
医薬品収納用ケース	2ケース	
冷 蔵 庫	1台	
折畳式寝台	3台	
外科用ライトスタンド	1台	
ストレッチャーパック	1箱	
野 外 灯	2台	
椅 子	12脚	
作 業 机	5台	
ト イ レ	1式	ポータブル式、パーソナルテント付
工具セット	1式	スコップ、ハンマー、バール等
業務用無線装置	1台	150メガ帯、400メガ帯
コピー・プリンター兼用機	1台	
ノートパソコン	1台	
デジタルカメラ	1台	
発 電 機	1台	
簡易給水システム	1台	
浄 水 器	1台	
水タンク	1台	100L

○放射線防護資器材（平成27年3月配備）

品 目	数 量
デジタル個人線量計	42個
防護服セット	42セット
空間線量率測定用 サーベイメータ	1個

○救護班活動用食料（平成27年10月末）

品 目	数 量	備 考
災害用備蓄食糧 （レスキューフーズ）	192食	①カレーBOX12食入5箱 ②牛丼BOX12食入5箱 ③シチューライス12食入6箱
非常食	250食	①α米五目ご飯（箱50人分）3箱 ②α米わかめご飯（個50人食）1箱 ③α米山菜おこわ（個50人食）1箱
保存水	272本	①10年保証1.5L12本入6セット ②10年保証1.5L10本入20セット

[救援物資の状況]

○救援物資の備蓄状況（平成28年3月31日現在）

品目	在庫数	品目	在庫数
毛布	2,145枚	バスタオル	769枚
緊急セット	1,096個	安眠セット	520個

○地区別救援物資配布状況（平成28年3月31日現在）

	世帯	人数	毛布	緊急セット	タオル	災害区分
高知市	12	31	29	13	28	火災
室戸市	3	10	10	3	10	火災
香南市	1	7	0	2	0	火災
香美市	1	1	1	1	0	火災
土佐市	3	3	3	2	3	火災
須崎市	2	2	32	2	43	避難所 床上浸水
四万十市	1	6	6	2	5	火災
梶原町	1	3	3	1	3	火災
大月町	1	1	1	1	1	火災
本山町	2	2	2	1	1	火災
安田町	1	1	1	1	1	火災
奈半利町	1	2	2	1	2	火災
土佐町	1	2	2	1	2	火災
いの町	3	6	6	3	6	火災
合計	33	77	98	35	105	

[東日本大震災に伴う義援金]

○義援金の募集等の状況

15都道県を対象にした義援金及び4県を対象にした義援金

平成23年3月14日から平成26年3月31日までの間に共同募金会、NHK、NHK厚生文化事業団、日赤十字社の4団体に寄せられた被災15都道県を対象にした義援金及び平成26年4月1日以降に日本赤十字社に寄せられた被災4県（宮城県、岩手県、福島県、茨城県）を対象にした義援金を合計したものの。

- ・受付額 3,779億円（中央共同募金受付分を含む）
（平成28年 2月29日現在）
- ・15都道県への送金額 3,779億円（日赤と中央共同募金から）
（平成28年 3月18日現在）
- ・被災者への配付額 3,779億円（平成28年 3月18日現在）

《各県ごとの義援金配分状況》 総計15都道県

宮城県（1,845億円、49%）福島県（1,307億円、35%）

岩手県（346億円、9%）その他（281億円、7%）

※高知県支部の募集状況 9億1,040万3,051円（平成28年3月31日現在）

〔内4県対象義援金 416万2,591円（平成28年3月31日現在）〕

高知県青少年赤十字加盟校一覧マップ

平成28年3月現在



青少年赤十字加盟校での各種講習会
(H27.4.1~H28.3.31)

救急法	76回	3,587人
水上安全法	18回	1,236人
雪上安全法	2回	121人
平和学習	4回	534人
防災学習	14回	951人
幼児安全法	8回	166人
登録式など	3回	618人

加盟校数	
高等学校	20
中学校	21
小学校	62
保・幼	9
特別支援	11
合計	123

(*網掛けは新規加盟校)

